

【ポスター発表】

## 保育者養成校学生の講義前後における「社会福祉」に対する印象の変化

○ 山梨学院短期大学 田中 結香 (010189)

中村 成一郎 (独立行政法人地域医療機能推進機構山梨病院・0101191)

〔キーワード〕 保育 社会福祉 印象

### 1. 研究目的

保育士養成課程における教科目には社会福祉があり、社会福祉における相談援助や利用者保護にかかわる仕組みの理解を目標として挙げている。このような中、「児童虐待の増加」「離婚やひとり親家庭の増加」「子どもの貧困と格差の世代連鎖」等をめぐる課題が山積し、保育分野におけるソーシャルワーク機能の重要性が示唆されている。様々な保育ニーズに対応するためには、「社会福祉」で学ぶ知識や技術は重要であり、基本的な相談援助とソーシャルワークの学修は保育士者としての専門性を高める要因にもなり得る。

そこで本研究では、保育者養成校学生の「社会福祉」の講義受講の前後における「社会福祉」の印象の変化を明らかにし、今後の「社会福祉」の講義において効果的な教育方法を検討する一助とすることを目的とした。

### 2. 研究の視点および方法

先行研究では、保育士養成課程における「ソーシャルワーク」に関連した授業の教授について、その方法を検討するものは散見した。しかし、教科目である「社会福祉」に限定すると、「社会福祉」の効果的な教授方法について検討した論文は数本しか見当たらない。授業構成は教員の経験値や学生の人数等によって変化することから、このような視点での研究を積み重ねていくことの重要性があると考えられる。

調査方法は、A短期大学で2022年度前期に「社会福祉」を受講した学生115人のうち、履修放棄した学生を除き、第1回の講義開始前および第14回の講義終了後において「社会福祉」に対する印象について自由記述を求め、研究への同意を得た学生108人のテキストデータを分析の対象とした。また、内容の解釈をする際には、各講義終了時に学生に回答を求めた社会福祉の講義に対するリアクションペーパーの内容も参考にした。分析には統計ソフト KH Coder (Version:3.Beta.05b) を使用し、計量テキスト分析を行った。分析方法は、計量テキスト分析における対応分析、共起ネットワーク分析とした。

### 3. 倫理的配慮

研究における自由記述の使用については、学生に対して、研究の主旨と内容、方法、結果の取り扱い、匿名性の保持、研究協力を辞退する権利等について文書及び口頭で説明し

た上で、同意の意志を確認し、同意が得られた場合に同意書を作成した。研究結果の公表にあたっては、個人名・組織名が特定されないよう匿名化し、データの管理についても鍵のかかる場所に厳重に保管した。また、本研究は、山梨学院短期大学研究倫理委員会において承認を得た（承認番号 2022002, 2022年4月6日）。また、開示すべき COI はない。

#### 4. 研究結果

第1回目と第14回目の講義時における「社会福祉」に対する印象の双方に挙げられていた語は、「人」「社会」「支援」「生活」「困る」であった。第1回目のみに挙げられた語は、「高齢」「介護」「サポート」「ボランティア」であり、第14回目のみに挙げられた語は、「福祉」「解決」「相談」「援助」であった。

第1回目及び第14回目の講義時の「社会福祉」に対する印象における共起ネットワーク分析を行った。第1回目のサブグラフ検出による出現パターンは3つに分かれ、【社会で困っている人を助ける制度】【社会的弱者へのボランティア】【生活への支援】と命名した。第14回目では8つに分かれ、【対人援助による生活支援】【問題解決】【少子高齢化による相談援助】【傾聴】【保護者の子育て不安】【虐待や貧困の家庭】【専門知識】【学びの必要性】と命名した。

#### 5. 考察

「社会福祉」に対する印象の全体的な変化として、第1回目には、【社会で困っている人を助ける制度】【社会的弱者へのボランティア】【生活への支援】との印象であったが、【対人援助による生活支援】【問題解決】【少子高齢化による相談援助】【傾聴】といった、ソーシャルワーク技術に関連する語が表現されていたり、【保護者の子育て不安】【虐待や貧困の家庭】といった子育て環境をめぐる現状における課題についても理解を深めていたりした。さらには、【専門知識】【学びの必要性】といった学修の質の向上に対する意欲や主体的に学ぶ意識も表出されていた。中でも、【対人援助による生活支援】【問題解決】【少子高齢化による相談援助】【傾聴】といった、ソーシャルワーク技術に関連する印象が増えたことは、「社会福祉」科目において相談援助の重要性が理解されたと推察される。そのため、今後も対人援助専門職である保育者に必要なソーシャルワーク技術とは何かを常に検討した講義構成としていくことが望ましいと考えられた。また、【保護者の子育て不安】【虐待や貧困の家庭】といった子育て環境をめぐる現状における課題に関連する印象が増えたことは、「社会福祉」科目において、社会問題も重要であると認識が深まったと推察される。社会問題が他人事ではなく、身近な問題であることや学生自身にも関連するという点を学生に認識させることが講義の大きなポイントであると考えられる。

今回は講義のどのような内容に効果があったのかという部分までは明らかにできていない。また、今後は相談援助の重要性の理解に対する持続性についても検討が必要である。